



発達の中の

煌めき

第I部

障害のある子ども・なかまの発達

白石正久 白石恵理子

しらいし まさひさ / 1957年、群馬県生まれ。小児科病院の発達相談員などを経て、現在龍谷大学名誉教授。

しらいし えりこ / 1960年、福井県生まれ。大津市発達相談員などを経て、現在滋賀大学教育学部教授。

第5回 「本当の要求」とはなにか — 自閉症児と「一歳半の節」

すでにお話ししたように、私たちは大
学を出て「発達相談員」という仕事に就
きました。学問に生きるには自信がな
く、しかし消極的な選択ではなく、この
仕事のなかに子どもの発達に近づくため
の大切な実践があると思ったからです。
その後、二人とも大学の教員になりました
が、「発達相談員」としても細々なが
ら活動してきました。

こうしてお話しすることも、その仕事 のなかで、障害のある子どもやなかま、 ともに生きる人びとから教えられたこと ばかりです。

「ウジくんが「本当の要求」に
出会うまで」
コウジくんとの出会いは、彼が四歳
のときでした。そのころは不安が強く、タ
オルやぬいぐるみを「心の杖」にして持
っており、砂などには触れられず偏食の
強い子どもでした。養護学校(当時)へ
の進学を迎えたころから、「追いかけて
こ」で「まてまて」を待つような期待の
心が生まれ、変化する素材で遊び、偏食
も少なくなっていました。そして、散
歩や外遊びの大好きな子になっていった
のです。

中学部時代は、お母さんが疲れた表情
を浮べた時期です。思い通りにならない
ときに、「パニック」を起こすことが増
えました。近くの商店にある特定銘柄の
アイスクリームを毎日食べたいので
すが、商品がないと大騒ぎになりました。
た。そのころ、一人で外出することが増
え、お母さんはそれが心配の種でした
が、「あなたの人生やから勝手にしい(し
なさい)」とあとを追うことをやめられ
ました。実はお母さんは、「息子のこと
をよろしく願います」と「ご近所」
にお願いして歩かれたそうです。「ご近
所」は、小さいころからコウジくんの手
をしっかりと握って歩き、ときには追いか
けているお母さんの姿を、いつも見守っ
てくれていました。

高等部になってから、近くの牛乳屋さ
んに毎日訪問するようになりました。彼
の目的はビンを洗浄し木箱に並べること
でした。仕事ぶりははいねいで、鼻歌交
じりにご機嫌で働いているというので
す。最初に訪問したときに商店主がその
仕事をしており、彼に手伝わしてくれ
たようです。そのていねいさにびっくりさ
れたのでしょうか。彼にとっては、そう受
けとめてもらえたことがうれしかったの

です。その後、八百屋さんでの袋詰めボ
ランティアも発覚しました。

それを語りながらお母さんが言われた
ことは、「『本当の要求』を意識できるよ
うになって、『思い込みの要求』が色あ
せてきたのでしよう」でした。アイスキ
ャンディーなども要求はするけれど、あ
きらめられるようになったそうです。

「一歳半の節」と発達の連関

自閉スペクトラム症(以下では自閉
症)は、他の障害もそうであるように多
様です。しかし多様さのなかに分け入っ
てみると、大切なことがみえてくること
があります。自閉症児は「一歳半の節」
において、機能・能力の発達の連関に一
つの傾向があります(白石正久「自閉症
の思春期の発達研究」『障害者問題研究』
第二六巻三号、一九九八)。発達の連関
とは、運動、手指操作、認識、対人関
係、情意などの諸力が、互いに他を必要
としながら、つながりあって発達するこ
とです。

七月号で、「一歳半の節」は、子ども
が「つもり」の発達とも言われる意図や
目的意識をもつようになるときだと述べ
ました。だからこそ、「つもり」通りに

はならない自分という矛盾が生まれ、苛
立つてパニックや拒否が強まっていま
います。おとなから「やろう」と一方的に
促される関係は、いっそう葛藤を強める
ことになるのです。

こういった自他の調整を含めて、「一
歳半の節」での発達の連関の特徴を整理
してみます。五月号で、乳児期前半から
後半への飛躍のときである「七か月頃の
節」では、「対」の「心の窓」が開き、
外界を知り分けて、自分で選びながら
いろいろな事物を取り入れるようになって
いくと述べました(「もう一つの『発達
の中の煌めき』」第三回でも解説)。「一
歳半の節」では、心のなかの「対」を使
って次のように外界にはたらきかけ、自
分に取り入れていくようになります。

①「対」の事物・事象を「結びつけて」
とらえられるようになり、「…の次は
…」「…の上には…」「…では…する」
というように、時間や空間や活動の関
係認識や記憶がではじめられる。

②「対」の事物・事象の間で、「…では
ない…だ」「…かな、それとも…かな」
という可逆操作が可能になり、「結び
つける」のではなく、「切りかえ」
や「選択」がではじめられる。